

ミュージアムパーク茨城県自然博物館において実践されてきた 博物館実習生による博物館学的研究の記録

加藤太一*

(2016年6月3日受理)

Record of the Museum Studies by the Museum Trainees in Ibaraki Nature Museum

Taichi KATO *

(Accepted June 3, 2016)

Abstract

Museum trainees are received every year in Ibaraki Nature Museum. They perform “independent museum studies” in Ibaraki Nature Museum for practical learning about the duties of museum staff. This report summarizes the past independent museum studies.

Key words: independent museum studies, museum trainee, Ibaraki Nature Museum.

はじめに

当館では毎年、博物館実習の実習生を受け入れている。その実習カリキュラムの1つとして、博物館学的研究（博物館の管理運営・資料収集・展示・教育普及などに関する研究）を“自由研究”として実践させる指導を行っている。これを実習生に課すことの狙いは、博物館の直面している様々な課題を見だし、その解決法を考えるという学芸員の仕事の一部を経験させることである。それと同時に、実習生は第三者の視点から当館の課題を分析して運営の参考になる成果を挙げることもつながり、今までに実施された自由研究の中には、実際に当館の運営や展示の改善に利用された例がある。

本稿は雑録として、これまでの実習生による自由研究を年度ごとにタイトル・テーマ・カテゴリを集計し、またその調査手法について簡潔にまとめて報告するも

のである。本稿によって過去の自由研究の情報を網羅的に参照することが可能となるため、これを今後の実習指導に役立てるとともに、当館の運営・展示の改善のための参考資料としたい。

これまでの自由研究の実施内容

1997年から2014年までの間に、合計174件の自由研究が実施されている。その内訳は、「A. 運営に関するもの」が5件、「B. 資料に関するもの」が8件、「C. 広報に関するもの」が16件、「D. 来館者に関するもの」が22件、「E. 教育に関するもの」が24件、「F. 施設に関するもの」が34件、「G. 展示に関するもの」が65件であった（図1）。年度別に見ると、展示に関するものは毎年必ず研究が行われている（図2）。

A～Gの各カテゴリ内で、さらに研究対象別に「A-1 職員」、「A-2 ボランティア」…というように研究テ

*ミュージアムパーク茨城県自然博物館 〒306-0622 茨城県坂東市大崎700 (Ibaraki Nature Museum, 700 Osaki, Bando, Ibaraki 306-0622, Japan).

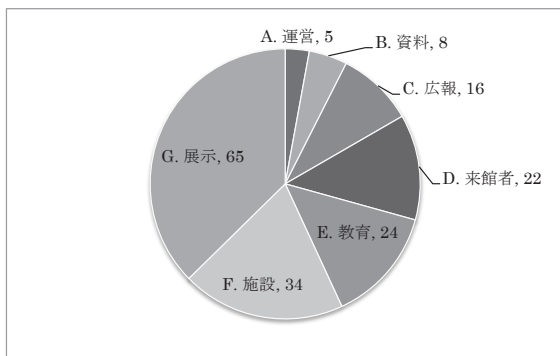


図 1. これまでの自由研究の実施数の内訳 (全 174 件).

Fig. 1. The breakdown of implementation number of the independent museum studies (total 174).

マを類型化した。以下ではこの類型化に基づき、174 件の自由研究についてタイトルと内容の要約を記載する。各研究タイトルの前に、実施年度および研究番号を付してあるが、実施年度・研究番号ごとの一覧は表 1 にまとめた。

A) 運営に関する研究 【5 件】

職員やボランティアなどのスタッフ、あるいは年間パスポートなどの博物館の運営について扱っている研究を「運営に関する研究」として区分した。

これまでの実施件数は 5 件と少ないが、年間パスポートなどの制度や防災状況など、第三者の立場から分析されることの意義が非常に大きい分野である。

A-1 職員 (1 件)

2004-6 職員のユニフォームについて

博物館職員に支給されている黄色いジャンパーの活用状況をアンケート調査した。

A-2 ボランティア (2 件)

1997-4 博物館側から見たボランティアの存在

博物館職員が博物館におけるボランティアのあり方についてどう考えているかアンケート調査した。

2000-6 博物館でのボランティア活動について

ボランティアにアンケートを実施し、ボランティア活動の実情を調査した。

A-3 年間パスポート (1 件)

2008-11 年間パスポートの利用状況

平成 18 年度の年間パスポート購入者記録から、県別購入者数や来館回数などを比較し、購入者の傾向を調査した。

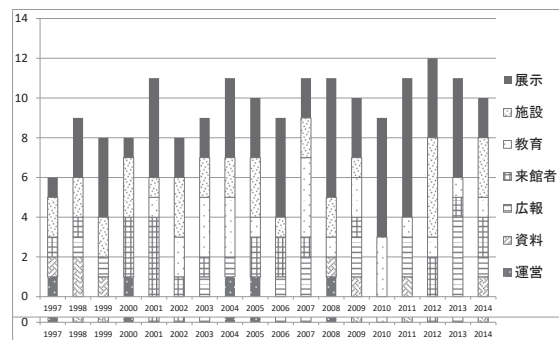


図 2. 自由研究の実施内容の推移.

Fig. 2. The transition of implementation contents of the independent museum studies.

A-4 防災 (1 件)

2005-10 本館における防災と防火管理の意義の考察

博物館職員の災害に対する認識度を調べるため、消火器や救急箱の位置を知っているか、応急救護ができるか調査を行った。また、実際に火災が発生した場合に備えて「蛍光避難標識」の導入や懐中電灯の設置箇所を増やすことなどを提案した。この研究を行った実習生は「甲種防火管理者」資格を取得しており、その知識を生かした研究であった。

B) 資料に関する研究 【8 件】

博物館の収蔵資料や展示資料に関して、所蔵数や状態などを調査している研究を「資料に関する研究」として区分した。収蔵状況に関して以外に、展示されている資料の劣化について調査を行ったものもみられた。博物館にとって資料はベースとも言える重要な要素であるが、過去の自由研究で扱われた例は 8 件と少ない。

収蔵資料については通常、来館者が深く知る機会はほとんどなく、来館者から資料に関して意見や感想を伺う機会ほとんどない。第三者から当館の資料の現状について分析、評価されたデータとして、これらの研究例は貴重である。

B-1 収蔵資料 (5 件)

1997-3 博物館資料の現状について

当館における資料の総数、登録率、増加速度などを他館と比較し、収蔵機能の調査をした。

1998-1 茨城県自然博物館における魚類標本の収集法について

魚類の液浸標本について、採集日・採集年月日が保持されているかなどの収蔵状態と標本点数の調査を行った。

2008-2 鳥類に関する展示と収蔵の状況

博物館周辺で見られる鳥類のうち、どのくらい剥製が博物館に展示もしくは収蔵されているのかを調査した。

2009-9 サメの収蔵状況について

館に収蔵してあるサメを調査・集計・分類し収蔵状況を調査した。

2014-4 サメの収蔵状況と展示への活用

当県近海で生息が確認されているサメとその収蔵状況を整理し、展示に活用できそうな種があるか調査した。

B-2 展示資料 (3件)

1998-6 博物館の展示の劣化について

館内の展示物が利用されることで劣化した部分を調べ、低コストで展示物を長く持たせる方法を検討した。

1999-1 続・博物館の展示の劣化について

館内の展示を来館者の視点に立って劣化が認められるか調査し、それらの原因を分析し、対応策を考えた。

2011-3 茨城県産出化石の収蔵及び展示状況 - 博物館の教育的役割 -

茨城県産出化石の収蔵状況と展示状況を調べ、茨城県の地質学的情報の教育に貢献できているか検討した。

C) 広報に関する研究 【16件】

各種メディアに関して、その有効性や展開方法について扱っている研究を「広報に関する研究」として区分した。時代を反映し、近年の研究例はホームページや Twitter などのインターネットメディアに関するものが多くなっている。

2011年のTwitterを利用した新しい広報戦略に関する研究を皮切りに、FacebookなどのSNSについて扱った自由研究がこれまで3件実施された。その後、当館の友の会公式Twitterが2013年に開設し、博物館公式Facebookが2014年4月に開設したが、その際に博物館実習生による研究内容は大いに参考とされた。特に大学生などの若い世代に対する広報戦略について、博物館実習生の意見は今後も参考とされるだろう。

C-1 メディア全般 (3件)

2004-8 宣伝効果の検証

当館の宣伝媒体であるポスターやチラシ、新聞記事などの効果を検証するため、地域ごとの入館者数の変動と宣伝の実施状況について比較調査した。

2007-3 広報とその効果に関して - 第37回企画展を例に -

広報活動のデータと来館者アンケートの結果の比較から、広報手段の地域別効果を調査した。

2009-8 来館者のメディアの利用と博物館からの距離の関係

来館者のアンケートから、博物館からの距離の違いによる情報メディアの使用法の傾向を調査した。

C-2 企画展ポスター (2件)

2009-3 ポスターの変遷

これまで開催された企画展のポスターで、記載されている情報に変化はあるのか、デザインに何らかの傾向はあるのかを調査した。

2013-1 企画展の効果的なポスターの傾向調査

歴代ポスターの人気投票を行い、来館者の目を引くデザインを性別や年齢別に調査した。

C-3 パンフレット (3件)

1999-6 ガイドのあり方について

博物館の総合パンフレットやイベントガイド、展示セルフガイドなどについて、用途別に内容を比較した。

2003-2 パンフレットの設置場所について

効果的なパンフレットの設置場所を検討するため、設置場所を増やし、それぞれの箇所での減少数を調査した。

2006-9 博物館を130%活用するためのパンフレット

来館者にアンケートを実施し、来館回数別の総合パンフレットの利用状況や利用方法の違いを比較調査した。

C-4 イベントガイド (1件)

2007-8 博物館イベントガイドの利用を促すために

来館者にアンケートを実施し、イベントガイドの利用状況を調査した。

C-5 ホームページ (4件)

1998-7 ホームページの利用状況について

1997年10月に開設して1年目のホームページのアクセス件数と利用者数がどのような変動を示すのか調査した。

2011-2 ホームページの利用状況・利用目的について
ホームページに関するアンケートを行い、ホームページへどういった目的でアクセスしたかなどを調査した。

2013-7 HP の利用状況と改良方法の検討
ホームページのアクセス件数のデータから、閲覧頻度の高いページはどこか、より使いやすくするにはトップにどのようなリンクを貼るべきか調査した。

2014-7 より使いやすいウェブサイトを目指して
当館のホームページがリニューアルによってページ別閲覧数がどう変化したか調べ、さらに来館者アンケートによって閲覧者のニーズを調査した。

C-6 SNS (3件)

2011-11 ツイッターを利用したリアルタイム広報の可能性を探る - 日本一の博物館を目指して -

若い世代の新規入館者を増加させるため、Twitterの運用でできる宣伝効果や、ほかの博物館でのTwitter実施状況を調査した。

2013-6 来館者の Twitter, Facebook 利用状況の調査
来館者アンケートを行い、当館の現在の来館者層における Twitter や Facebook の利用状況を調査した。

2013-9 友の会 Twitter のフォロワーを増やそう!

2013年8月1日から開始した友の会 Twitter をより広く普及するため、リツイート機能の活用などでフォロワーが増えるかどうか調査した。

D) 来館者に関する研究 【22件】

来館者全体、あるいは高齢者や身障者などの来館者について調査した研究を「来館者に関する研究」として区分した。来館者の地域別傾向などを検証しているものや、バリアフリーに関するものが多くみられる。バリアフリーに関する研究では、どこまで整備するか目標設定が難しい。例えば視覚障害者の館内見学に関して、「全盲の来館者でも付添人を必要とせず安心して館内を歩き回れる」ことが理想的だが、当館は幼児や小学校低学年の団体なども多く、館内が大変混み合うこともあり、いつでも付添人なしで安心して展示見学できる環境の実現は難しい。どのようにすればより多くの来館者により良い展示見学の時間を提供できるのか、今後も多くの検討が必要な分野であろう。

D-1 一般 (7件)

1997-6 来館者の声と館の対応について

来館者の声(館内に設置されているご意見箱)の意見を集計し、来館者が博物館に求めていること、また実際に博物館が要望を実現させた例を調査した。

2006-7 アンケートのアンケート

来館者アンケートにより、来館者のアンケート回答に対するモチベーションなどを調査した。

2007-6 博物館の利用傾向

来館者アンケートを行い、博物館利用者の地域別利用傾向、公共交通機関の認知度などを調査した。

2012-1 アンケートの現状と利用状況について

企画展アンケートを集計し、年代層の偏りなどアンケートの現状を調べ、来館者の意見を正確に捉えられているか調査した。

2014-3 入館者数の変動 - 3館を比較して -

ミュージアムパーク茨城県自然博物館、群馬県立自然史博物館、神奈川県立生命の星・地球博物館の3館を比較し、入館者数の変化とイベントの充実状況について分析した。

2014-6 来館者の設備に対する意見と対策

来館者アンケートを行い、照明、トイレ、休憩スペース、コインロッカーに対する満足度を調査した。

D-2 子ども (3件)

2002-2 子供の視点から見た博物館

団体として来館した小学校から送られてくるお礼の手紙から、小学生にとってどのような展示が印象的だったか、学年別に調査した。

2005-7 子供から見た博物館 - 身長130cmからの死角の検証 -

目視とビデオ撮影によって、小学3年生の平均身長(132cm)でガラス面からの距離20cmでの条件で、展示物やラベルの見えやすさを調査した。

2009-7 第三展示室の小学生の興味・関心について

団体で訪れる小学生(3~5年生)を対象にインタビューを行い、第3展示室の中で面白かったもの、つまらなかったものを展示室のイラストの中から挙げてもらい、小学生の興味関心を調査した。

D-3 親子 (1件)

2013-10 親にとってより良い博物館とは?

第5展示室出口付近で聞き取りを行い、子どもの年齢、親子一緒にパネルを読んだか、魅力的な展示はどれかなどを質問し、子どもの年齢別での親子の展示の利用の仕方の違いを調査した。

D-4 高齢者 (1件)

2001-8 ご年配の方々がより楽しめる見学コースについて

インタビューを行い、年配の方がどの展示室に興味があるのか調査した。

D-5 外国人 (1件)

2001-4 外国人から見た博物館

外国人来館者に英語版総合パンフレットを渡して館内を見学してもらった後にアンケートを行い、外国人がこの博物館に求めるのは何か調査した。

D-6 視覚障害者 (5件)

2000-2 耳で楽しむ博物館 - 音声ガイダンスについて -

音声ガイダンスがどのような人に利用されているのか、展示の中で適切に設置されているか調査した。

2000-3 てんじのてんじ - 展示と点字と音声ガイダンスとのつながり -

音声ガイダンスがどのような人に利用されているのか、展示の中で適切に設置されているか調査した。

2001-1 てんじのてんじ 2 - 視覚障害者にやさしい博物館を目指して -

館内の点字や音声の案内によって視覚障害者が不自由しないか調査した。

2006-4 視覚障害者のためのガイドブック

導線をはっきりさせて、視覚障害者が付添人がいなくても館を利用しやすくなるようにするにはどうすればいいか調査した。

2012-4 盲導犬ユーザーから見た博物館

盲導犬ユーザーから見た博物館の問題点を調査した。

D-7 車椅子 (3件)

1998-2 身障者と共々楽しめる博物館をめざして - 施設設備に対する意見と提案 -

車椅子利用者が館内を利用する上での障害を調査し、各所の問題点を指摘した。

2000-8 屋外での車椅子利用について

車椅子に乗って野外施設を散策し、快適に散策できるかを調査した。

2003-7 車椅子での館内利用について

車椅子を使って館内展示室を観覧・体験し、車椅子を使う方の立場に近づいて不自由しないか調査した。

D-8 交通手段 (2件)

2001-11 博物館にこられる交通手段について

アンケートを実施し、この博物館への交通アクセスにおいて、車、電車、バスなどどんな交通手段で来館したのか調査した。

2005-5 来館者のTX及び守谷駅発バスの認知度

来館者アンケートを実施し、つくばエクスプレスなどの交通手段の利用状況を調査した。

E) 教育に関する研究 【24件】

博物館で行われる各種イベント、学校などを対象とした移動博物館などのアウトリーチ事業、ワークブックや解説シートなどの学習教材などに関する研究を「教育に関する研究」として区分した。

既存のプログラムを改良するもの以外に、「シロアリを使った教材作り」など、実習生自身の専門性を生かし、実際に当館で活用できるプログラムを新規開発した創造的な研究例もみられた。

E-1 館内ガイド (3件)

2003-1 館内案内活動の実情と提案

展示解説員に対してアンケートを実施し、ガイドツアーとスポットガイドの課題など実情を調査した。

2007-2 ガイドツアーに対する来館者の意識

ガイドツアーに参加した来館者と、参加しなかった来館者のガイドツアーにアンケートを実施し、ガイドツアーに関する認知度の違いなどを調査した。

2009-4 ガイドツアーをより良くするために

展示解説員にアンケートを行い、ガイドツアーの際に解説する展示物の選択基準や、実施の際に気をつけていることなどを調査した。

E-2 野外ガイド (2件)

2002-1 野外ガイドツアー参加について

野外ガイドツアーの受付簿と日誌から、どの時期に参加者が多いのか、参加者の年代などを調査した。

2003-8 野外ガイドツアーと貸出サービスの認知度

来館者アンケートを実施し、野外ガイドツアーと野外観察器具の貸出サービスが来館者にどのくらい認知されているのか調査した。

E-3 野外クイズ (1件)

2004-1 野外クイズについて

来館者に野外クイズの動物・植物・地学から5問ずつ問題を解いてもらい、正答率を調査した。3択問題であるにもかかわらず地学クイズの正答率は3

- 分の1であり、難易度が高すぎるということがわかった。
- E-4 解説シート (2件)**
- 2004-3 「解説シート」の利用状況について
来館者アンケートを実施し、館内に設置配布されている解説シートの利用状況を調査した。
- 2010-5 解説シートの週末における利用状況
館内の解説シートの減少枚数を計り、利用者にインタビューを行って、解説シートの利用状況を調査した。
- E-5 発見ノート (2件)**
- 2007-10 「発見の使われ方」について
団体来館者向けの発見ノートを一般来館者向けに改訂し、実際に来館者に利用してもらってアンケートを行い、改良すべき点を調査した。
- 2010-8 「新・発見ノート」の提案
従来の発見ノートと常設展示との対応・非対応箇所を確認し、改良を施した新・発見ノートを提案した。
- E-6 イベント (3件)**
- 2001-7 博物館のイベントの利用状況について
自然講座、自然教室、自然観察会の参加者アンケートを集計し、定員の充足率やリピーターの割合、グループ構成人数、参加者の年齢構成、参加者地域、友の会加入者の割合を調査した。
- 2002-6 サンデーサイエンスの利用者状況と今後の課題
サンデーサイエンスの参加者アンケートおよび独自のアンケートを行って集計し、参加者の傾向や意見を調査した。
- 2009-10 ファミリー向けイベントの参加傾向
ファミリー向けイベントについて、応募者の年齢と地域、申込日を集計し、傾向を調査した。
- E-7 講師派遣 (1件)**
- 2011-4 講師派遣の傾向についての考察
講師派遣における派遣先や月別、分野別の傾向を調査した。
- E-8 学芸員実習 (1件)**
- 2012-12 博物館実習生の自由研究における傾向について
これまでの博物館実習生による自由研究の記録から、実習生が選ぶ研究テーマの傾向を調査した。
- E-9 その他教育 (9件)**
- 2003-5 博物館資料貸出の利用状況について
教育用資料借受申請書をもとに、これまでの利用件数、利用目的、利用範囲を調査した。
- 2004-9 菅生沼の有効な活用について
菅生沼を利用した野外ガイドツアー、自然教室、自然観察会、自然講座の実施状況から、菅生沼の活用状況を調査した。
- 2005-4 野外観察用道具貸出の認知度とサイン効果
野外にいる来館者にインタビューを行い、博物館入口付近に野外観察用道具貸出に関してのサインを設置した場合としない場合で、野外観察用道具貸出の認知度の変化を調査した。
- 2007-1 野外観察道具の認知度と利用状況
来館者インタビューと野外観察道具貸出の貸出記録から利用状況を調査した。
- 2007-5 アウトリーチ事業の利用状況
移動博物館と教育用資料貸出の利用回数を県北、鹿行、県央、県西、県南で比較し、地域別の利用状況を調査した。
- 2008-6 野鳥観察セットを一般向けにするために - 広告も含めて -
野鳥観察セットの宣伝ポスターを掲示し、利用者アンケートを行って宣伝ポスターの効果を調査した。
- 2010-7 鳥のくちばしと食べ方についてのプログラム作り
鳥のくちばしと食べ方についての学習プログラムを作成した。
- 2013-2 シロアリを使った教材作り
シロアリの生態について楽しく学べるプログラムを作成した。
- 2014-1 サメに対するイメージ - レクチャー前後での変化 -
一般の来館者が持つサメに対するイメージを調査し、サメに関する短いレクチャーによってイメージがどのように変わるか調査した。
- F) 施設に関する研究 [34件]**
- 博物館の展示コースに配置されている休憩場所やトイレ、図書室や野外などの各種施設に関する研究を「施設に関する研究」として区分した。来館者の利用状況を調査したものが多くみられる。
多くは図書室や野外施設に関するものであった。図書室や野外施設は展示と同じく、来館者が利用して学

習したり楽しんだりする場であるため、実習生の関心も高いことが伺える。

一方で、トイレや時計、授乳室、コインロッカーなどの設備に関する研究例は少なく、それぞれ1件ずつであった。近年、トイレなどの設備は老朽化が深刻な状態となっており、今後はより調査が必要な部門だと考えられる。

F-1 休憩場所 (3件)

2001-5 館内落ち着く場所チェック

館内の座れる場所 18 か所を 10 分ずつ回り、来館者の様子から利用状況と環境がどのくらい整っているかを調査した。

2002-4 来館者の疲労度チェック

出口にて来館者アンケートを行い、館内の休憩所が十分であるかなどの状況を調査した。

2003-9 休憩所の利用状況

1 回恐竜ホールの休憩所において、通過する来館者の年代とベンチに座った人数を記録し、この休憩所の利用状況を調査した。

F-2 ショップ (4件)

1998-3 ミュージアムショップの現状について

来館者とミュージアムショップの店員にインタビューを行い、ショップでの来館者の様子を観察し、ショップでの商品の売れ行き状況と来館者のショップへの要望を調査した。

2002-8 ミュージアムショップの現状と新しい商品の提案

月別の来館者数とショップ利用者数のデータやショップでのアンケートから、ミュージアムショップの現状を調査した。

2008-5 来館者が持つ展示の印象と求める物品・資料との関連

1 階野外出入口で来館者へインタビューを行い、印象に残った展示、購入した商品、どんな商品がほしいかなどを調査した。

2014-8 お土産は誰のために買うのか？

ショップでお土産を購入した来館者にアンケートを行い、誰が誰にどのような商品を購入したのか調査した。

F-3 トイレ (1件)

1999-8 博物館のトイレについて

来館者アンケートや、トイレ内部の環境調査、清

掃員へのインタビューを行い、博物館のトイレの現状を調査した。

F-4 図書映像 (6件)

1997-5 来館者の図書室の利用法について

図書室において利用者の様子を記録し、図書室の利用状況を調査した。

1999-5 図書室の蔵書について

図書室の蔵書の構成・管理状況について、データベースをもとに調査した。

2003-3 図書室の利用状況と役割

図書室において開架に置いてある本と利用者の様子を観察し、図書室の利用状況を調査した。

2005-1 館内に設置してあるビデオコーナーの利用状況について

図書室のビデオコーナーの利用者にアンケートを行い、設備の使い心地や要望を調査した。

2007-4 図書室の利用者を増やすためには

図書室の前で来館者アンケートを行い、利用状況や図書室に関する来館者の認識を調査した。

2012-6 図書室とビデオコーナー利用の現状と改善

図書室において来館者アンケートを行い、図書室とビデオコーナーの利用状況と来館者が興味あるカテゴリなどを調査した。

F-5 野外 (11件)

1998-8 野外施設と看板の利用について

野外において来館者を観察し、野外施設の利用状況と、看板がどのような役割を果たしているのかを調査した。

2000-1 雨の日の野外へ

雨の日でも野外施設を楽しんでもらうため、雨の日の野外の危険・不便な場所を、雨の日に実際に歩いて調査した。

2002-3 空に太陽があるかぎり - 音声ガイダンスシステムを野外に持ち出すために -

音声ガイダンスを実際に使用して館内を見学し、過去の音声ガイダンスの利用者アンケートを集計し、野外における音声ガイダンスの利用について検討した。

2004-2 親子連れリピーターの野外施設の利用目的

親子連れのリピーターにアンケートを行い、親子連れリピーターがどのような興味・目的をもって来館しているのかを調査した。

2004-4 “古代の広場”を考える - 利用者数とその

実態－

古代の広場において利用者を観察し、利用状況を調査した。

2005-3 親子連れの野外での過ごし方とスペースの有効活用

親子連れの野外での過ごし方を観察し、過ごしやすい野外作りとスペースの有効利用を検討した。

2007-11 古代の広場－過去と今と未来－

古代の広場において利用者を観察してその利用状況と、パンフレットなどでの古代の広場に関する広報状況を調査した。

2012-3 野外施設人気ランキング

野外施設から18か所を選び、各地点で10分ずつ利用者数をカウントして利用状況を調査した。

2012-5 野外施設の現状とさらなる発展を目指して

野外で来館者アンケートを行い、野外施設に対する満足度や要望を調査した。

2012-9 来館者の野外利用に関して

自然発見工房にて、来館者アンケートを行い、本館からの移動経路や野外施設の利用状況を調査した。

2014-5 野外施設の問題点について

野外施設における植生と設備の問題点を目視調査して野外施設の現状の問題点を調べ、さらに来館者アンケートを行って来館者がどれだけ野外施設の問題点を意識しているのか調査した。

F-6 その他施設 (9件)

1997-1 館内の掲示物についての調査と考え

館内の掲示物を確認して回り、掲示物に内容が古いものや必要性の低いものがないか調査した。

2000-4 来館者にわかりやすい誘導表示

館内の誘導表示を観察し、わかりにくい表示について調査した。

2000-5 博物館内の時計について

館内の時計の設置箇所を観察し、時計の見つけやすさや展示で時間が決まっているものとの対応を調査した。

2005-8 館内のサインの現状を調べ、問題点を探る。

第5展示室の出口で来館者アンケートを行い、第3展示室から第4展示室に行く人数とディスカバリープレイスに行く人数を計測し、さらに第4展示室から第5展示室までの滞留時間を計測して、第4展示室と第5展示室の利用状況を調査した。

2006-6 茨城県自然博物館におけるコインロッカーの使用状況とその改善点

博物館内のロッカーの1時間ごとの利用率を計測し、来館者にコインロッカーの認知度や要望に関するインタビューを行って、コインロッカーの利用状況を調査した。

2008-3 ナーシングルーム(授乳室)の利用状況

来館者アンケートを行い、ナーシングルームの利用状況と要望を調査した。

2009-5 バードウォッチングカフェの利用状況について

バードウォッチングカフェで来館者の様子を観察し、インタビューを行って、利用状況を調査した。

2012-7 セミナーハウスを利用した宣伝活動の効果について－第7展示室を例として－

ディスカバリープレイスの茨城の自然コーナーの宣伝ポスターを作成し、セミナーハウスに掲示した状態と掲示していない状態で利用者の行動の変化を観察し、セミナーハウスにおける茨城の自然コーナーの宣伝効果を調査した。

2014-9 中川志郎蔵書コーナーについて

新設された故中川志郎名誉館長の蔵書コーナーにおいて、来館者の様子を観察し、利用者アンケートを行って利用状況を調査した。

G) 展示室に関する研究 【65件】

博物館の第1展示室から第5展示室、ディスカバリープレイス(生き物、茨城の自然)、企画展示室に関する研究を「展示室に関する研究」として区分した。自由研究全体で最も数が多く、約4割を占める。展示室別では第3展示室を扱った研究が最も多い。一方で研究例が最も少ないのは、動く恐竜のジオラマがある第2展示室であった。2002年に実施された「子供の視点から見た博物館」や、2013年に実施された「常設展人気ランキング」では、ともに第2展示室が一番人気であるという結果が出ているだけに、今後はより多くの研究の実施が望まれる展示室である。

G-1 全体 (20件)

1998-4 五感で感じる博物館を念頭においた展示構成の分析

常設展で五感を使って体験する展示がどれだけあるか調査した。

1998-5 「展示構成の分析」から展示タイトルの統制についての考察

展示案内に記載された点字項目と、展示パネルのタイトル文字を照合し、表記に間違いがないか調査した。

1998-9 見落とされがちな展示について

実際に常設展を見学し、見落とされがちな展示を調査した。

1999-4 さわれる展示物の現状について

常設展においてハンズオン展示物がどれだけあるか、さらに来館者の様子を観察し、その利用状況を調査した。

1999-7 博物館内の“音”

実際に館内を見学し、常設展において音が発生する展示がどこにあるか、効果的に使用されているか調査した。

2000-7 さわれる魅力 -タッチングプール-

タッチングプールを利用した来館者にアンケートを行い、満足度や実際に海に行きたくなくなったかなどを調査した。

2001-2 展示形態の影響力

展示解説員にアンケートを行い、どのような展示が興味を引きつけるのか調査した。

2001-9 館内の映像資料について

常設展の映像資料の長さや周辺環境を調べ、その中から4か所を選んで2時間ずつ利用者の様子を観察して利用状況を調査した。

2001-10 見える展示・見えない展示

(資料が残っていないため、調査内容についての詳細は不明。)

2003-4 「視覚の変化」によるアミューズメント化

照明など、視覚の変化がどのような効果をもたらすか調査した。

2003-6 入館者の動線

2階における来館者の動線を観察し、順路が1つに決まっていない当館で来館者はどのような経路で移動するのか調査した。

2005-6 第4・第5展示室の利用状況について

第5展示室出口で、来館者アンケートを行い、第3展示室から出てきた来館者が第4展示室に入っていく数と1階のディスカバリープレイスに行く数を計測し、さらに第4展示室から第5展示室までの滞留時間を計測し、第4・第5展示室の利用状況を調

査した。

2006-3 茨城県博の学芸員は10年でどれだけ学んだか

「博物館の展示解説は150字以内か200字以内が良い」という仮定に基づき、常設展と企画展の解説パネルの文字数を過去と現在の解説パネルの文字数の変化として比較調査した。

2007-9 展示を見たときの第一声 展示物は人になにを与えるか

来館者の様子を観察し、常設展における来館者がよく発する言葉を集計した。

2008-7 リピーターが楽しめる博物館

常設展の3か所の気づきにくい展示物において、30分ずつ来館者の様子を観察し、さらにインタビューを行って展示の認識度を調査した。

2010-2 興味誘因と導線 -見られない展示を生かす為に-

第2展示室と第3展示室において解説パネルを追加し、展示コーナーに入った来館者人数、滞在時間などを計測し、追加の解説パネルの効果を調査した。

2012-11 通路から外れた袋小路の展示エリアの利用率と改善方法

第2展示室と第3展示室の袋小路になっている展示コーナーで、展示コーナーのパネルを設置した場合と展示解説パネルを設置した場合、何も設置しない場合で、来館者の利用にどのような変化がみられるか調査した。

2013-4 映像展示の新旧から見る利用時間の変化

常設展の映像展示において、来館者の利用時間や人数を計測し、映像展示の新旧や操作方法別に利用状況を調査した。

2013-11 常設展人気ランキング

恐竜ホールで来館者アンケートを行い、常設展における来館者の人気度を調査した。

2014-10 博物館の追加展示は来館者に気づいてもらえるか

常設展に新しく設置した展示物はどれだけ来館者に気づいてもらえているか、展示室でアンケート調査を行った。

G-2 第1展示室 (7件)

1997-2 第1展示室の展示について

来館者と職員にアンケートを行い、第1展示室における展示物ごとの興味や感想を調査した。

2004-11 続・第1展示室（進化する宇宙）の展示について

第1展示室において来館者アンケートを行い、入口の暗さをどう感じるか、太陽系の模型に気づいたかなどを調査した。

2006-8 第1展示室入口は暗くて怖いのか？

来館者アンケートを行い、第1展示室の入口が本当に暗くて怖いのか調査を行った。

2008-9 資料をより多くの人に伝えるための展示の仕方

第1展示室内で来館者インタビューを行い、展示の仕方によって目の引きやすさ、理解のしやすさについてどのような変化がみられるか調査した。

2008-10 映像資料展示の情報量と有用性

第1展示室における映像資料の使われ方、長さ、情報量などを比較し、来館者の様子を観察して利用状況を調査した。

2009-2 滞在時間の差は何故生じるのか - 第1展示室に目を向けよう -

第1展示室の滞在時間が第3展示室と比較してなぜ短いのか、来館者の様子を観察して調査した。

2014-2 真空と風・音・圧力についての体験型展示の理解度調査

「風と音と圧力のふしぎな現象」について、補助の解説パネルを設置して、アンケートを行って補助パネルがある場合とない場合の理解度の違いを調査した。

G-3 第2展示室 (1件)

2010-3 目立たない展示に光を…！

第2展示室のプテラノドンについて、看板のあるなしでどれだけ来館者が気づく割合に変化があるか調査した。

G-4 第3展示室 (12件)

2001-3 ジオラマはどのくらい見られているのか

第3展示室の山地林のジオラマと水槽ジオラマにおいて来館者インタビューを行い、利用状況を調査した。

2002-5 第3展示室における幼少見学者の行動について

第3展示室における幼少の見学者の様子を観察し、利用状況を調査した。

2004-5 展示物における見学時間の比較

第3展示室の5か所の展示物において、来館者の

見学時間を測定し、利用状況を調査した。

2005-9 第3展示室における利用状況と改善点

第3展示室の袋小路になっている展示3か所において、体験または見学した人数と通過した人数を計測し、利用状況を調査した。

2008-8 第3展示室の？マークの引き出し展示に気づいてもらうには

第3展示室の？マークが付いた引き出しの展示に補助パネルを設置し、気づく来館者がどのくらい増えるか調査した。

2009-1 第3展示室の年代別の見学状況

第3展示室において来館者の様子を観察し、年代別の利用状況を調査した。

2010-1 第3展示室の展示解説補助資料の作成とその効果

第3展示室に動物図鑑と植物図鑑を設置し、来館者がどれだけ利用するか調査した。

2010-4 生物（生き物）を使った展示について

第3展示室の水槽の見学者の様子を観察し、水槽展示の利用状況を調査した。

2011-1 第3展示室におけるラベル内容の比較検討

第3展示室の展示資料のラベルについて、種名、分類、学名、分布、説明文などの情報の有無を調査した。

2011-7 水系展示室のあれこれ - 水圏生物の生態に目を向けよう！ -

水槽ジオラマについて、水槽表面の解説文に注目してもらうため、赤い矢印を設置した場合と設置しない場合とで、閲覧する人数の違いを調査した。

2011-8 ぐるっと見渡す水の旅 - 水系展示における「見晴らし」利用を考える -

水系展示において見学者の様子を観察し、インタビューも行って、利用状況を調査した。

2013-3 シーラカンス展示の認知度合いについて

第3展示室に新しくオープンしたシーラカンスの展示において、頭上の模型に気づいてもらえるように補助掲示を設置した場合としない場合で来館者の様子を観察し、補助掲示による効果を調査した。

G-5 第4展示室 (2件)

1999-2 来館者の興味と滞在時間の関係

第4展示室において来館者の様子を観察して滞在時間を計測し、利用状況を調査した。

2004-10 嗅覚を活かした展示について

- 第4展示室の嗅覚を使用する展示において、全入室者に対する利用者の割合や、利用者の意見を調査した。
- G-6 第5展示室 (3件)
- 2006-1 第5展示室がもっと活用されるために 工事のいらない新しい展示アイテムの提案
第5展示室において、工事をせずに展示について興味を持ち、理解を深めてもらえる改善案を提案した。
- 2006-2 第5展示室の利用状況と改善方法
第5展示室において各展示の利用者数を計測し、利用状況を調査した。
- 2012-10 第5展示室におけるモニター展示の利用状況と利用促進案
第5展示室の映像展示について、入室者数と利用者数を測定し、利用状況を調査した。
- G-7 ディスカバリープレイス (生き物コーナー) (3件)
- 2006-5 走査型電子顕微鏡の利用状況
ディスカバリープレイスの走査型電子顕微鏡のコーナーにおいて、利用人数やどのような人が利用したかを観察し、利用した人にアンケートを行い、走査型電子顕微鏡の利用状況を調査した。
- 2012-2 走査電子顕微鏡の操作利用と試料の理解について
ディスカバリープレイスの走査電子顕微鏡において、操作説明の補助パネルと観察試料についての解説パネルを設置した場合と設置しない場合で、来館者の利用にどのような変化がみられるか調査した。
- 2013-8 ディスカバリープレイスの利用について - 博物館での生き物との関わり方 -
ディスカバリープレイスの生き物コーナーにおいて利用者数を計測し、どんな生物を展示してほしいかアンケートを行い、利用率と要望を調査した。
- G-8 ディスカバリープレイス (茨城の自然コーナー) (7件)
- 2001-6 ディスカバリープレイスにおける見学者の利用形態について
ディスカバリープレイスの茨城の自然において、来館者の様子を観察し、地学、動物、植物の部門展示と自動検索モニターの利用状況を調査した。
- 2004-7 『茨城の自然』は死角となりうるか
ディスカバリープレイスの茨城の自然において、2階から降りてくる来館者が茨城の自然の展示を素通りするかどうか観察し、素通りした人には展示に気づけなかったかどうか尋ね、茨城の自然が死角となっているのか調査した。
- 2007-7 ディスカバリープレイスの引き出し展示をみってもらうには
ディスカバリープレイスの各部門の引き出し展示において、来館者の様子を観察し、利用状況を調査した。
- 2008-1 「茨城の自然」の利用者を増やすために (資料が残っていないため、調査内容についての詳細は不明。)
- 2010-9 第7展示室の見学者の割合について
ディスカバリープレイスの茨城の自然において来館者の様子を観察し、2階から降りてきた人のうち、どれくらいが茨城の自然を見学しているのか調査した。
- 2011-9 館内と野外をつなげる工夫 - 植物展示を例とする -
茨城の自然の植物展示のうち、野外施設のネームプレート付き植物と対応しているものを調査した。
- 2011-10 「茨城の自然」に注目!! - Please Look at the NATURE OF IBARAKI -
茨城の自然に注目してもらえるよう看板を設置した場合と設置しない場合で来館者の様子を比較し、来館者の行動に変化がみられるか調査した。
- G-9 企画展示室 (10件)
- 1999-3 企画展における来場者の視点と動向
「ビッグ・デュオ」において来館者の動線や滞在時間を測定し、展示物ごとの利用状況を調査した。
- 2002-7 第24回企画展「コリアの自然史」に関してのアンケート結果
第24回企画展「コリアの自然史」の企画展アンケートを集計し、企画展示室入口の見つけやすさなどを調査した。
- 2005-2 企画展における動線とアンケートデータの比較
第34回企画展「46億年のタイムカプセル」において来館者の様子を観察し、展示物ごとの滞在時間などを調査した。
- 2008-4 第43回企画展「熊 - 森のアンブレラ種 -」アンケート結果
第43回企画展「熊」においてアンケートを実施し、企画展を知った方法や満足度について調査を行

った。

2009-6 企画展から人の集まる展示法を考える

第46階企画展「姿なき化石」において来館者の様子を観察し、過去5回分の企画展アンケートを集計し、どのような展示物が来館者の興味を引くのか調査した。

2010-6 第49回企画展「そうだ！海だ！海藻だ！」の意識調査について

第49回企画展「そうだ！海だ！海藻だ！」の出口においてアンケートを行い、入館理由や興味を持った展示などを調査した。

2011-5 人気のある企画展には何か秘密があるのか

年報からこれまでの企画展についての情報を集計し、開催時期やテーマごとに人気のある企画展を調

査した。

2011-6 リピーターが望む企画展とその傾向

企画展出口でアンケートを行い、興味のある企画展テーマなどを調査した。

2012-8 企画展におけるスタンプラリー参加者の展示室内での動き

第55回企画展「不思議いっぱい！貝たちの世界」において、スタンプラリーの参加者の様子を観察して、スタンプしかやらない人数、展示も見人数などを計測し、スタンプラリーの利用状況を調査した。

2013-5 企画展クロスワードの有効性の検証

第58回企画展「ぎょ・魚・漁」においてクロスワード参加者にアンケートを行い、クロスワードの利用状況を調査した。

表1. これまで実施された自由研究の一覧.

Table 1. The list of independent museum studies.

年度	No.	研究テーマ名	分類
1997	1	館内の掲示物についての調査と考え	施設
	2	第一展示室の展示について	展示室
	3	博物館資料の現状について	資料
	4	博物館側から見たボランティアの存在	館運営
	5	来館者の図書室の利用法について	施設
	6	来館者の声と館の対応について	来館者
1998	1	茨城県自然博物館における魚類標本の収集法について	資料
	2	身障者と共に楽しめる博物館をめざして - 施設設備に対する意見と提案 -	来館者
	3	ミュージアムショップの現状について	施設
	4	五感で感じる博物館を念頭においた展示構成の分析	展示室
	5	「展示構成の分析」から展示タイトルの統制についての考察	展示室
	6	博物館の展示の劣化について	資料
	7	ホームページの利用状況について	広報
	8	野外施設と看板の利用について	施設
	9	見落とされがちな展示について	展示室
1999	1	続・博物館の展示の劣化について	資料
	2	来館者の興味と滞在時間の関係	展示室
	3	企画展における来場者の視点と動向	展示室
	4	さわれる展示物の現状について	展示室
	5	図書室の蔵書について	施設
	6	ガイドのあり方について	広報
	7	博物館内の“音”	展示室
	8	博物館のトイレについて	施設
2000	1	雨の日の野外へ	施設
	2	耳で楽しむ博物館 - 音声ガイダンスについて -	来館者
	3	てんじのてんじ - 展示と点字と音声ガイダンスとのつながり -	来館者
	4	来館者にわかりやすい誘導表示	施設
	5	博物館内の時計について	施設
	6	博物館でのボランティア活動について	館運営
	7	さわれる魅力 - タッチングプール -	展示室
	8	屋外での車椅子利用について	来館者
2001	1	てんじのてんじ 2 - 視覚障害者にやさしい博物館を目指して -	来館者
	2	展示形態の影響	展示室
	3	ジオラマはどのくらい見られているのか	展示室
	4	外国人から見た博物館	来館者
	5	館内落ち着く場所チェック	施設
	6	ディスカバリープレイスにおける見学者の利用形態について	展示室
	7	博物館のイベントの利用状況について	教育普及
	8	ご年配の方がより楽しめる見学コースについて	来館者
	9	館内の映像資料について	展示室
	10	見える展示・見えない展示	
	11	博物館にこられる交通手段について	来館者
2002	1	野外ガイドツアー参加について	教育普及
	2	子供の視点から見た博物館	来館者
	3	空に太陽があるかぎり - 音声ガイダンスシステムを野外に持ち出すために -	施設
	4	来館者の疲労度チェック	施設
	5	第3展示室における幼少見学者の行動について	展示室
	6	サンダーサイエンスの利用者状況と今後の課題	教育普及
	7	第24回企画展「コリアの自然史」に関してのアンケート結果	展示室
	8	ミュージアムショップの現状と新しい商品の提案	施設
2003	1	館内案内活動の実情と提案	教育普及
	2	パンフレットの設置場所について	広報
	3	図書室の利用状況と役割	施設
	4	「視覚の変化」によるアミューズメント化	展示室
	5	博物館資料貸出の利用状況について	教育普及
	6	入館者の動線	展示室
	7	車椅子での館内利用について	来館者
	8	野外ガイドツアーと貸出サービスの認知度	教育普及
	9	休憩所の利用状況	施設
2004	1	野外クイズについて	教育普及
	2	親子連れリピーターの野外施設の利用目的	施設
	3	「解説シート」の利用状況について	教育普及
	4	“古代の広場”を考える - 利用者数とその実態 -	施設
	5	展示物における見学時間の比較	展示室
	6	職員ユニフォームについて	館運営
	7	「茨城の自然」に入る人の動線について	
	8	宣伝効果の検証	広報
	9	菅生沼の有効な活用について	教育普及
	10	嗅覚を活かした展示について	展示室
	11	続・第一展示室（進化する宇宙）の展示について	展示室

2005	1	館内に設置してあるビデオコーナーの利用状況について	施設
	2	企画展における動線とアンケートデータの比較	展示室
	3	親子連れの野外での過ごし方とスペースの有効活用	施設
	4	野外観察用道具貸出の認知度とサイン効果	教育普及
	5	来館者のTX及び守谷駅発バスの認知度	来館者
	6	第4・第5展示室の利用状況について	展示室
	7	子供から見た博物館 - 身長130cmからの死角の検証 -	来館者
	8	館内のサインの現状を調べ、問題点を探る.	施設
	9	第三展示室における利用状況と改善点	展示室
	10	本館における防災と防火管理の意義の考察	館運営
2006	1	第五展示室がもっと活用されるために 工事のいろいろな新しい展示アイテムの提案	展示室
	2	第五展示室の利用状況と改善方法	展示室
	3	茨城県博の学芸委員は10年でどれだけ学んだか	展示室
	4	視覚障害者のためのガイドブック	来館者
	5	走査型電子顕微鏡の利用状況	展示室
	6	茨城県自然博物館におけるコインロッカーの使用状況とその改善点	施設
	7	アンケートのアンケート	来館者
	8	第一展示室入口は暗くて怖いのか?	展示室
	9	博物館を130%活用するためのパンフレット	広報
2007	1	野外観察道具の認知度と利用状況	教育普及
	2	ガイドツアーに対する来館者の意識	教育普及
	3	広報とその効果に関して - 第37回企画展を例に -	広報
	4	図書室の利用者を増やすためには	施設
	5	アウトリーチ事業の利用状況	教育普及
	6	博物館の利用傾向	来館者
	7	ディスカバリープレイスの引き出し展示をみてもらうには	展示室
	8	博物館イベントガイドの利用を促すために	広報
	9	展示を見たときの第一声 展示物は人になにを与えるか	展示室
	10	「発見の使われ方」について	教育普及
	11	古代の広場 - 過去と今と未来 -	施設
2008	1	「茨城の自然」の利用者を増やすために	資料
	2	鳥類に関する展示と収蔵の状況	資料
	3	ナーシングルーム(授乳室)の利用状況	施設
	4	第43回企画展「熊 - 森のアンブレラ種 -」アンケート結果	展示室
	5	来館者が持つ展示の印象と求める物品・資料との関連	施設
	6	野外観察セットを一般向けにするために - 広告も含めて -	教育普及
	7	リピーターが楽しめる博物館	展示室
	8	第3展示室の?マークの引き出し展示に気づいてもらうには	展示室
	9	資料をより多くの人に伝えるための展示の仕方	展示室
	10	映像資料展示の情報量と有用性	展示室
	11	年間パスポートの利用状況	館運営
2009	1	第3展示室の年代別の見学状況	展示室
	2	滞在時間の差は何故生じるのか - 第一展示室に目を向けよう -	展示室
	3	ポスターの変遷	広報
	4	ガイドツアーをより良くするために	教育普及
	5	パドウォッチングカフェの利用状況について	施設
	6	企画展から人の集まる展示法を考える	展示室
	7	第三展示室の小学生の興味・関心について	来館者
	8	来館者のメディアの利用と博物館からの距離の関係	広報
	9	サメの収蔵状況について	資料
	10	ファミリー向けイベントの参加傾向	教育普及
2010	1	第3展示室の展示解説補助資料の作成とその効果	展示室
	2	興味誘因と導線 - 見られない展示を生かす為に -	展示室
	3	目立たない展示に光を・・・!	展示室
	4	生物(生き物)を使った展示について	展示室
	5	解説シートの週末における利用状況	教育普及
	6	第49回企画展「そうだ!海だ!海藻だ!」の意識調査について	展示室
	7	鳥のくちばしと食べ方についてのプログラム作り	教育普及
	8	「新・発見ノート」の提案	教育普及
	9	第7展示室の見学者の割合について	展示室
	10	第三展示室におけるラベル内容の比較検討	展示室
2011	1	ホームページの利用状況・利用目的について	広報
	2	ホームページの利用状況・利用目的について	広報
	3	茨城県産出化石の収蔵及び展示状況 - 博物館の教育普及的役割 -	資料
	4	講師派遣の傾向についての考察	教育普及
	5	人気のある企画展には何か秘密があるのか	展示室
	6	リピーターが望む企画展とその傾向	展示室
	7	水系展示室のあれこれ - 水圏生物の生態に目を向けよう! -	展示室
	8	ぐるっと見渡す水の旅 - 水系展示における「見晴らし」利用を考える -	展示室
	9	館内と野外をつなげる工夫 - 植物展示を例とする -	展示室
	10	「茨城の自然」に注目せ!! - Please Look at the NATURE OF IBARAKI -	展示室
2012	1	Twitterを利用したリアルタイム広報の可能性を探る - 日本一の博物館を目指して -	広報
	2	アンケートの現状と利用状況について	来館者
	3	走査電子顕微鏡の操作利用と試料の理解について	展示室
	4	野外施設人気ランキング	施設
	5	盲導犬ユーザーから見た博物館	来館者
	6	野外施設の現状とさらなる発展を目指して	施設
	7	図書室とビデオコーナー利用の現状と改善	施設
	8	セミナーハウスを利用した宣伝活動の効果について - 第七展示室を例として -	広報
	9	企画展におけるスタンプラリー参加者の展示室内での動き	展示室
	10	来館者の野外利用に関して	施設
	11	第五展示室におけるモニター展示の利用状況と利用促進案	展示室
	12	通路から外れた袋小路の展示エリアの利用率と改善方法	展示室
2013	1	博物館実習生の自由研究における傾向について	教育普及
	2	企画展の効果的なポスターの傾向調査	広報
	3	シロアリを使った教材作り	教育普及
	4	シーラカンス展示の認知度合いについて	展示室
	5	映像展示の新旧から見る利用時間の変化	展示室
	6	企画展クロスワードの有効性の検証	展示室
	7	来館者のTwitter, Facebook 利用状況の調査	広報
	8	HPの利用状況と改良方法の検討	広報
	9	ディスカバリープレイスの利用について - 博物館での生き物との関わり方 -	展示室
	10	友の会 Twitter のフォロワーを増やそう!	広報
	11	親にとってより良い博物館とは?	来館者
2014	1	常設展人気ランキング	展示室
	2	サメに対するイメージ - レクチャー前後での変化 -	来館者
	3	真空と風・音・圧力についての体験型展示の理解度調査	展示
	4	入館者数の変動 - 3館を比較して -	来館者
	5	サメの収蔵状況と展示への活用	資料
	6	野外施設の問題点について	施設
	7	来館者の設備に対する意見と対策	来館者
	8	より使いやすいウェブサイトを目指して	広報
	9	お土産は誰のために買うのか?	施設
	10	中川志郎蔵書コーナーについて	施設
11	博物館の追加展示は来館者に気づいてもらえるか	展示	

おわりに

本稿では、これまで当館の博物館実習で実習生が行った自由研究について集計し、それぞれの研究テーマや調査方法などについてまとめた。

カテゴリ別にみると、「展示（65件）」、「施設（34件）」、「教育（24件）」、「来館者（22件）」、「広報（16件）」、「資料（8件）」、「運営（5件）」の順に実施数が多い。当館の博物館実習では、これら全てのカテゴリに対応する内容の講座・実習をカリキュラムに組み込んでいるが、実施されたテーマ数には最大で13倍もの顕著な偏りが生じている。これは、「展示」や「施設」に関する博物館の課題が実習生の視点から指摘・検証しやすく、「運営」や「資料」に関してよりも研究テーマを設定しやすいためと考えられる。また、当館の博物館実習は主に教育課職員が行っており、資料課職員や事務職員は実習生の指導にあたる機会が少ないことも、この研究テーマの偏りの理由として考えられる。特に自由研究に関しては、研究テーマの設定から手法の決定、結果の考察、発表の作成まで、すべて教育課職員が指導を担当している。今後は、「運営」や「資料」などに関する自由研究の実施も取り組みやすいよう、サポートに配慮したい。

個々の研究テーマや研究手法をみると、自由研究は実習生の多様な考え方や専門性により、当館の職員だ

けでは得られない自由な発想をもって取り組まれている。そのため、自由研究は当館の様々な課題に取り組んだ実践研究として、評価・参考にすべき点は多い。「甲種防火管理者」などの資格を有していたり、点字サークルや盲導犬に関する学部に所属していたりと、実習生自身の専門性・スキルを活かした研究は、当館職員にとって貴重な知見をもたらす。また、TwitterやFacebookなどの新しいツールの利用など、若者の視点や柔軟な発想を活かした研究も同様である。このことから、実習生による自由研究は今後も継続して実施され、その成果は博物館の運営に積極的に活かされていくことが望まれる。

本稿がまとめたこれまでの自由研究の記録が、今後の実習生が自由研究を実施する際の参考となれば幸いである。博物館実習とは学芸員養成教育における実践的な経験や訓練を積むためのプログラムであり、自由研究の本義は実習生に博物館現場の諸問題に取り組む体験を提供することである。これからも実習生にとって博物館での仕事を体験し学習する良い機会となるよう、有意義な実習を提供していきたい。

謝 辞

これまで当館で博物館学的研究を行ってきた実習生と、彼らの指導にあたった歴代の当館職員の方々に感謝の意を表す。

(要 旨)

加藤太一. ミュージアムパーク茨城県自然博物館において実践されてきた博物館実習生による博物館学的研究の記録. 茨城県自然博物館研究報告 第19号 (2016) pp. 135-148.

ミュージアムパーク茨城県自然博物館では毎年、博物館実習生を受け入れている。当館では博物館実習において、学芸員の仕事を実践的に学ぶため、博物館学的な研究を「自由研究」として実施する指導を行っている。本稿はこれまでの自由研究を総括した。

(キーワード): 自由研究, 博物館実習生, ミュージアムパーク茨城県自然博物館.